

2022年11月21日
川田テクノロジーズ株式会社

2023年3月期 第2四半期決算説明会 質疑応答

※当日の質疑応答をそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承下さい。

Q1：コスト増という話があったが、内容をブレイクダウンして欲しい。例えば、資機材や人件費の高騰、円安の影響など。併せて、どうなればこれが落ち着くかという見通しや、価格転嫁交渉の進捗などについても教えて欲しい。

A1：鋼材価格等の高騰の今般の決算への影響は、セグメントによって異なっています。鉄構セグメントの鉄骨事業についてはほぼ想定通りで、転嫁が比較的上手くいっています。他方、建築セグメントについては、設計の遅れが資材発注の遅れに繋がり、結果として単価上昇の影響を強く受けました。これは、当社は鉄骨においては大手ファブの一角であり、購買力が相対的にある一方で、建築においてはそれほどでもないことが一つの要因と考えています。

Q2-1：工事損失引当金が5億円程度増加しているが、これはほぼ建築セグメントによるものか？

A2-1：その通りです。

Q2-2：その中身を詳しく教えて欲しい。

A2-2：多層階の大型物件で原価が膨らみました。年度当初においては、むしろ前期に計上した引当金を当期中に戻せるのではないかと考えていました。

Q2-3：つまり、減っている部分はなく、さらに5億円をオンした、という理解で良いか？

A2-3：その通りです。

Q2-4：これ以上の引当増加はないと考えてよいか？

A2-4：結構です。

Q3：ここ数期に亘って、受注が特殊な動きをしているように感じる。設計変更が獲得できるタイミングによるものか？

A3：それもありますが、今回については建築セグメントにおいて1Qで受注計上した新規物件が2Qに客先都合により受注取消になったことによるインパクトが大きいです。

Q4-1：建築セグメントの繰越工事は170億円程度あるが、この大半がコスト増の影響を受けるのか？

A4-1：大半ではありません。多層階案件3件に大きな影響が出ましたが、従来から当社が得意としている平屋の案件についてはそれほど大きな影響はございません。

Q4-2：その多層階案件の竣工はいつか？

A4-2：来期末までには完成予定です。

Q5：土木セグメントの利益予想を下げているが、設計変更の獲得ペースが遅れたためか？

A5：その通りです。加えて、特定の補修案件において当初より施工範囲が拡大したため、売上・費用計上のための進捗率が合理的に見積もることができなくなったことも要因の一つとなっています。

以 上